

令和 7 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690900061
法人名	(株) ガーデン
事業所名	イエローガーデン小矢部
所在地	富山県小矢部市観音町5番44号
自己評価作成日	令和7年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自社の理念の一つ、各利用者の尊厳を守る事を念頭に、各職員は利用者の心配事や悩みそして食事やレクレーションの感想に至るまでゆっくり聴き、洩らさず記録して、支援や介護に反映したいと朝夕の申し送りによって情報の共有に努めています。週1回は東西ユニット合同のレクレーションを開催して、縁あって同じ屋根の下で暮らす利用者達がさらに良い関係を深める貴重な機会としています。各ユニットのフロアでは、静かな居室から移動して一人で読書に専念したり、一人ぬり絵に挑戦したりと個々にも過ごしやすい空間にもなっている状況に安心しています。最近利用者から「トラブルしよう」と声を掛け合って七並べや神経衰弱等元気いっぱい楽しんでいる時は、トラブルが発生しないように遠くから優しく支援している状況です。利用者や家族が選ばれた生活の場所で、利用者が健康を維持した穏やかな生活が継続できるように、職員一丸となって支援に努めています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

基本情報リンク先	
----------	--

隣接する保育園の園庭には植栽や芝生、草花が緑あざやかに生い茂り、そこを走り回る子どもたちの姿を窓から眺め、手を振る利用者の姿がほのぼのとした日常の光景である。事業所の理念は、「①人権を尊重する、②家庭的な雰囲気を維持する、③自然との触れ合いに努める、④地域住民との交流を図る」の4つを掲げている。職員は、利用者一人ひとりを尊重し、日々の暮らしの中で、利用者の思いを傾聴するよう努め、「利用者の希望する生活習慣がどこまで継続できるか？」について常に職員間で話し合い利用者が納得できる介護を目指している。運営推進会議では委員からの意見が多く、事業所の取り組みに理解と支援をいただき、良好な協力関係が構築されている。新人職員は困りごとや不安などを先輩職員に相談しやすい環境があり、チームでより良いケアを目指している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和7年7月16日	評価結果市町村受理日	令和7年10月28日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①人権を尊重する②家庭的な雰囲気を維持する③自然との触れ合いに努める④地域住民との交流を図るの4つの理念を、リーダー会議や全体会議の度に確認して、各利用者の生活が理念に基づいているか振り返る機会としている。	理念は玄関と事務所の職員が目につく場所に掲示している。年間6回開催の全体会議では介護保険の目的、事業所の理念を毎回確認している。管理者は説明の時に大事な内容を補足して職員にわかりやすく伝えている。傾聴の大切さや、家庭的な環境の中にも適切な言葉遣いの大切さなどを繰り返し伝えることで全職員で共有し、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の回覧板を通じて地域の情報や行事案内等を頂いたり、獅子舞やお正月の神社のお祓い、隣接した保育園児達の恒例の交流など、楽しい付き合いが継続している。	地域の獅子舞は恒例の行事となり、利用者は「花を打ったけ」と職員に聞いてくるなど楽しみにしている。保育園との交流に花束を渡し歌を歌う機会があり、花束をもらった利用者が満面の笑みを浮かべて喜んでる写真がある。ボランティアの受け入れもあり、おやつを時間を一緒に過ごしていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の団体から、施設の役割を勉強したいとの申し出があり、おやつの時間に見学を提案、お茶の接待、傾聴等を体験して頂いた。見学は住み慣れた自宅ではないが、穏やかに共同生活をしている状態を学ぶ機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催。認知症の利用者の訴えや自発的行動を紹介して認知症への理解を深めて頂いている。ヒヤリハットの事故については状況を説明、安全、安心な施設を目指すための対策をその場で協議したり、利用料金については家族の負担や施設の立場も考慮した話し合いとなる等、それぞれの立場で貴重な意見を頂く機会となっている。	委員は地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表、相談役に構成されている。報告事項にヒヤリハット内容と対策、事業所の現状などがあり、委員の方から熱心に意見が上がり、事業所の応援団となっている。また、重度化していることや人員不足に理解を示し、提案などより良い話し合いができています。	会議の報告書は細かく記載されているが、職員への開示・回覧、また、家族への配布がされていないことから、議事録を職員へ回覧し、全家族へ配布することでより一層事業所の活動を共有し、周知を推進することに期待したい。また、運営推進会議を活用し、災害時の地域協力体制について検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、保険者の立場で介護保険法の目的や活用方法など丁寧に説明して頂き、利用者支援を振り返る機会ともなっている。日々の介護支援状況から、困難な事例については直接相談に出向いて助言を頂いている。	保険者として運営推進会議に参加し事業所の取り組みや課題を話し合う協力関係ができています。また、日頃から連絡を密にし困難事例の相談に対し傾聴してもらい助言をいただいている。運営推進会議だけでなく日頃の様々な機会を通じて関わりを持ち、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リーダー会議や全体会議の度に、利用者の尊厳を守る観点から身体拘束はしない施設で有る事を説明している。ただし安全を維持する方法について朝夕の申し送り時にも協議して、一時的であれ、身体拘束となる場合は、家族と話し合い、同意を得て実施している。	身体拘束廃止の指針があり、職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。利用者の人権を守ることがケアの基本であることを認識し、身体拘束ゼロを目指す姿勢を持ち、意識を高めている。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、議事録の作成と整備を行い、また、年2回の研修を通して、身体拘束廃止の理解を深め、参加できない職員には資料の回覧をするなど、さらにより良いケアにつながるよう取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー会議や全体会議の度に理念について説明して、転倒転落等の再発防止策としての行動制限す、尊厳を脅かす、虐待に繋がる事を話し合い、尊厳を守る介護を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症であっても、人生経験豊富な各利用者の価値観や生活習慣を理解して、日々の発言はゆっくり聴き、洩らさず記録して、その人らしい生活が実現できて、継続できるように、検討を重ねて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時に、先ずは見学して頂き、日々の生活の場所への不安を解消したうえで入所申し込みをして頂いている。契約時には、当施設の支援出来る事と出来ない事等を追加説明して安心して入所日を迎えるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者の発言は貴重な利用者の思いとして介護記録に記載し、迅速に検討して日々の暮らしに取り込めることは実施へ繋げている。家族には面会時や電話連絡時に利用者の現状を報告することによって、改めて意向を聴き、できることから実践に繋げている。	日常的に連絡をこまめに行い、日頃の様子を伝えるとともに、要望や意見を聞き取っている。面会時や電話連絡で聞き取った要望は日誌の特記事項に記録している。「健康維持のため栄養補助食品を食べさせてほしい」や「就寝時間が過ぎても起きているときに好きなコーヒーを飲ませてほしい」などの家族からの要望は随時対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時間に、利用者の状態や介護内容の変更等の報告によって情報の共有の機会とし、全体会議には参加者全員が現場の状況やそれに伴う提案等を発言する時間を設けている。新たな提案等はリーダー会議で再検討して、実施に繋げている。	全体会議で職員から一人一言意見を発表してもらう機会がある。介護に対する思いや、「課題解決に努めていきたい」など前向きな意見を聞くことができる。中には調理員から「タオルの汚れを漂白したい」という意見に対し、介護職員との業務協力など改善に繋がったケースもある。また、職員の「乾燥機を購入してほしい」という要望がとおり、働きやすい環境への配慮がみられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダー会議や全体会議の議事内容を代表者に報告して、出来る事から迅速に改善、備品の購入等に繋げている。環境整備や雇用状況についても代表者と相談して、出来ることから改善して雇用の継続に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には専門性を求めているが、各職員の持てる潜在能力も惜しみなく活用できる職場環境の維持に努めている。研修会の案内等は廊下に貼りだして、参加を促している。施設内研修として排泄用品の業者に新商品の紹介から快適な当て方等を講義して頂き、職員は安心して実践して、利用者に満足して頂ける流れを維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループの同業者とは、人材不足対応についてや、利用者の重度化対策、医療との連携等について、情報交換をして、地域性を活かしたサービスの質の向上を目指している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時の本人の意向を最優先に支援が開始され、共同生活が大きな負担となる事が予測されるので、利用者がどんな事でも、速やかに、職員に相談して、迅速に解決に向けて対応が開始されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設として出来る事、出来ない事から、緊急時の他機関との連携についても説明し、安心して施設に任せて頂けるような信頼関係の構築に努めている。なお、施設での生活の透明化を目指し、ヒヤリハット内容や本人からの苦情等も速やかに報告、迅速に解決して穏やかな生活の継続にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの在宅での介護サービス利用状況を居宅支援事業所の担当ケアマネジャーに確認し、本人や家族の意向も聴きながら、新しい環境においてもその人らしい生活となるように準備している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生経験豊富な先輩としてとらえて、洗濯物をたたんだり、ほうきで掃き掃除、利用者が誘い合ってトランプを楽しんだり等の積極的な行動を見守り、職員共に心地よい生活環境を目指す思いが維持できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が誰よりも一番頼りにしているは家族であることを職員は理解して、家族の相談事は迅速に受け入れ、家族が負担なく支援出来るように応援し、本人と家族の関係が継続できるように、パイプ役としての役割に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が長い人生かけて培ってきた親族や近隣の友人が県内外から来所される時は、楽しい生活ぶりを紹介して安心して頂くように努めている。遠方の家族から定期的な電話がある時は、子機を使って居家でゆっくり会話できるように支援している。	家族に協力していただきながら受診後にドライブやスーパーで食べたいものを購入して帰宅したり、自宅に立ち寄り庭に咲いていたあじさいを切り、事業所に戻り挿し木をするなど、なじみの場所に出かける機会がある。また、昔からの行きつけの美容院へ行く方もおられ、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中にあっても、各利用者の生活習慣や価値観が発揮できるように見守り、利用者の表情や発言等の変化も見落とさず、心地よい関係を維持するように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族から、ここなら大丈夫と、ご近所の利用者を紹介して頂き、入所に至った時は、紹介者に近況を報告して、紹介者が安心して頂けるように感謝の思いも伝えて信頼関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現場職員は各利用者のつぶやきや怒り、不安な表情や想定外の行動なども貴重な意向として介護記録に記載して、情報の共有に努め、内容によっては家族との協議に繋げ、本人の意向に叶うように努めている。	日頃の会話や関わりの中で利用者の言葉や思いは介護記録に記載している。「恩徳讃を歌いたい」「職員と一緒にトランプしたい」「コンビニでアイスを買いたい」など個々の要望には随時対応している。本人の希望や思いは介護計画に反映し全職員で共有。一人ひとりの気持ちに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅でのサービス利用状況から、その人らしい生活を理解するように努め、入所後は新しい環境、そして日々変化する心身の状態から、随時、利用者やその家族の意向の変化を柔軟に受け入れ、日々の暮らしに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々記録される介護記録や日誌、ライフチャート等から、各利用者の心身の変化、身体機能の変化、発言の変化等に注目して、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録内の利用者の声、嬉しい、楽しい、辛い、苦しい等は、利用者の心からの叫びであると判断して受け止めて、利用者のその人らしい生活を理解する貴重な情報として、職員間で協議しつつ介護計画に反映している。また朝夕の申し送り時には利用者の生活状況が報告されるので、介護方法を見直す機会としている。	介護記録をもとに本人の思いやその人にとって必要な支援を職員間で話し合っている。介護計画は本人・家族の思いを確認し、職員の意見や提案を踏まえてその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ個別の計画となっている。	介護計画作成にあたり、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、さらにチームでつくるケアマネジメントに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録される、種々の記録物から、各利用者の心身の変化を収集している。特に表情や発語等に注目して、記録者や各ユニットリーダーと協議して、適時介護方法の変更や次回の介護計画に反映するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者の求める生活実現に、各職員の持てる力は最大限に活用できるように努めているが、本人の家族に求める思いは職員のみで補う事は難しい。面会時間ではなく面会の頻度に注目して来所を提案している。「また来てくれたが」の笑顔を継続したい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の恒例行事で、正月には町内の宮総代さんの手配によって神社から宮司さんがお祓いに来所されたり、獅子舞祭りには、利用者のアンコールに応じて町内会長が時間調整して長時間舞を披露したりして頂いている。お礼のお祝儀は利用者から渡して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の嘱託医の往診には事前に状態を報告、同席する看護師からも詳細を伝えて診察の参考にして頂いている。本人や家族の希望で専門医療機関を受診される時も、状態の経過が判るように報告書を持参して診察の参考として頂いている。	利用者全員が嘱託医の往診を受けており、事前にFAXで情報提供をしている。個別に必要な診療科目(精神・整形・歯科など)への受診は、家族が付添う際に状態を記載した書類を渡し、医療への情報提供を行っている。処方の変更などがあれば日誌に記入し伝達している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の勤務日には一緒に食事をして摂取状況からも状態の把握に努めている。急変時には電話にて看護師から対応の指示があったり、状態により主治医に連絡、相談して、専門医療機関に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院決定時には速やかに利用者基本情報と共に入院に至る状態を地域連携室に報告している。退院時には、当施設での生活が出来るように、福祉用具の使用の有無や食事形態等について入院先の各種の専門職員や家族と一緒に協議して退院日を安心して迎えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けての指針を説明し、当施設として出来る介護内容を伝え、家族の同意を得ている。各利用者の状態の変化に応じて主治医には迅速に報告し、緊急時の医療機関については主治医の意見や家族の意向の把握に努めている。	入居時に重度化した場合について口頭で説明している。体調や状態の変化に応じ、早い段階から家族と話し合い、事業所でできること、できないことを伝え、今後の方向性を踏まえて、施設や病院など適切な場所に繋げるよう支援している。基本的に看取りケアは行っていないが、今後看取りの体制を整備し対応していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中夜間を問わず、利用者の急変や事故時には、速やかに対応が出来るように、常時、家族との連携に努めて、報告、相談、実践等に繋げている。利用者を職員一人で支えるのではなく、チームで適切な介護がいつでも提供できるように、職員の信頼関係作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は日中想定で、限られた勤務者が協力して安全に利用者を避難誘導する貴重な訓練となった。地域の避難場所は把握している。	年2回火災の避難訓練(日中・夜間想定)を実施している。火災訓練では、令和6年能登半島地震で実際に行った「利用者が黄色いタオルをかぶる」という行動が活かされている。地震、水災害時の避難場所は把握しているが、具体的な避難方法は検討中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の生活習慣や価値観を理解してその人らしい生活の実現を目指している。辛い事も、遠慮なく訴えて頂ける職員を目指して、ゆっくり話を聴くなど信頼関係の構築に努めている。	利用者との関係性において親しみはあってもなれ合いにならないよう声掛けも適切に行うように努めている。職員から「夜間のポータブルトイレ利用時に少し離れた場所から見守りしている」との話があり、本人の思いや羞恥心など尊厳への配慮を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に笑顔を絶やさず、各利用者がいつでも安心して職員に声をかけられるように努めている。嬉しいことや驚き、悲しい、辛い、悔しい等、聞こえてきた貴重な声は、本人のその時の意向と受け止めて、自己決定の実践に繋げている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「住み慣れた家が一番」と訴える利用者の思いを尊重しながら、夜更かしや早起き、話し好きや交流が苦手等を受け入れ、その人らしい生活が継続するように努めている。ただし新たな共同生活での楽しみも体験して頂き、「ここも良いね」と、満足して頂けるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は温かい「お絞り」で顔や手を拭いて気持ちよく朝食へと繋げている。入浴時には各利用者に着替えを選んで頂き、職員が準備した時は本人に確認して頂き、各利用者が納得した衣服を着ている。洗濯による衣類の消耗を発見した時は速やかに家族に相談して、現状にあった衣服を準備して頂いている。利用者が自宅に帰って準備される事もある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に楽しく食事して頂くために毎食前に口腔体操を実施し、嚥む機能、飲み込む機能、箸を持って自分で口まで運べる機能等、残存機能維持に努めている。自分のペースで食べたい、自分の食べたい物から食べたい等、時間がかかっても、食べこぼしがあっても、自分で食べれる満足を見守っている。	食事は基本外部業者に委託して調理したものを温めて提供している。行事食の笹寿司とそうめんのメニューでは、利用者が盛り付けのお手伝いをし、笹寿司は地域なじみのものでみなさんに喜ばれている。家族からいただいた里芋やさつま芋を調理しておいしく食べたり、おやつにプリンアラモードを作って食べたりと工夫をこらして食の楽しみを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康を維持して過ごして頂くために、体調の変化、嘔む、飲み込む等、心身の状態把握に努めて、各利用者が食べやすく、内臓にも負担の無い食事を提供している。食事量、水分摂取状況は日々記録して、体調の変化の早期発見に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨きは、利用者には食後の流れとして定着している。安全に食べることが出来るように自歯や義歯の状態にも目を配り、嘔む、飲み込む動作に負担が生じた時は速やかに家族や歯科医院に相談して食べやすい状態の維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の尿意便意を最優先、次に排尿間隔を確認して「トイレが空いていますよ」などとトイレでの排尿を促している。排泄用品の利用開始については事前に試しながら、使用に繋げている。汚染防止対策として羞恥心に配慮しながら、適時に優しく声をかけてトイレでの排泄を目指している。	生活全般を記録するライフチャートの排泄表で排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合った声掛け誘導を行っている。利用者の状態に合わせて布パンツの方、夜間のみオムツ使用やポータブルトイレ使用など個別対応がされている。業者からパットのあて方など指導を受けたりしている。下剤による排便コントロールも状況に応じて適宜行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者が好みの飲み物で水分補給が出来るように、毎食前の番茶や入浴後のスポーツ飲料に加えて、冷たいジュース類や温かいコーヒー紅茶等、様々な飲み物を準備している。便秘対策に、週1回ではあるが、乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に、各利用者に着替えの準備して頂き、本日が入浴日だと理解して頂いている。入浴の有無については本人の意思を尊重して、時間を空けて何度か声をかけて入浴に繋げている。浴室内では、お互いに家族のことや、地域の事等を提供しあって楽しい交流の時間となっている。	基本的に週2回入浴できるよう調整している。家庭浴槽をまたいで入るため、またげない方はシャワー浴対応としている。肌の弱い方にはその方に合ったシャンプーやソープを使用したり、また、好みのシャンプーを使用している利用者もおられる。湯船に入浴剤やゆずを入れ、会話を楽しんだり安全・快適な入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者のこれまでの生活を参考に、昼間の静養や夜間の睡眠が安心して取れるように、ベッドの配置や明るさ、室温等にも配慮している。自宅から使い慣れた自分の寝具を持参して頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化に応じて家族や主治医に連絡して、各専門医から内服薬、湿布薬、軟膏等が追加処方されている。服薬支援については、何度も名前や服用日時を確認して誤薬や飲み忘れが無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	床の掃き掃除や洗濯物たたみ等、各利用者が出る機能を負担なく活かせる機会を提供している。利用者が隣の利用者の歌の本のページをめくったり、色鉛筆を譲り合って使ったり等優しい関係維持に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣接の保育園児達に声をかけたり、保育園児達からは「おばーちゃん」と優しい笑顔や挨拶をたくさん頂き、前庭までの散歩は楽しい交流の機会となっている。医療機関への受診時には「大好きなケーキやお弁当を買ってきました」とか「自宅ではドライブスルーでしたが寄ってきました」等家族が楽しい外出の機会を作って下さっている。	日常的に前庭やウッドデッキに出て日光浴ができ、隣の保育園の子どもたちが走り回る姿を見たり、声をかけたりと交流ができる。タクシーを利用し城山公園の方までドライブにでかけたり、家族の協力を得て、なじみの場所への外出支援を行っている。今後も個別の外出支援を計画し、気分転換やストレスの発散につながる外出を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に本人、家族に説明して、小口現金を預かり、家族に代わって利用者の必要な日用品を購入する事もある。小口現金の収支状況は定期的にレシートと収支記録のコピーを家族に手渡し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設から家族に連絡時や家族から施設に連絡があった時は、子機を使って居室で利用者と一緒に話をして、家族も本人も安心して頂くように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者が挑戦した個性的なぬり絵や、一緒に作ったちぎり絵や折り紙を貼って、季節感や達成感を感じる環境に努めている。各ユニットごとにレクリエーションを楽しむ場所でもあるが、週1回は東西ユニット合同のレクリエーションを開催して、縁あって一緒に生活する皆さんの交流の場所にもなっている。	共用空間には利用者で作成した季節の装飾や手作りの口腔体操のポスターが貼ってある。食事を摂るテーブル席とゆったりくつろげるソファが置かれ、窓から明るい光が差し込み居心地の良い空間となっている。テーブルでは利用者同士が楽しく談笑しており、職員はキッチンからやさしく見守りしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で誘い合って4~5人でトランプをにぎやかに楽しんだり、居室から好みの本を持参して一人静かに自席で読書されたり、大相撲は大型テレビで見たいとテレビ前の場所を陣取って観戦等々、それぞれが遠慮なく過ごしやすい場所となるように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が遠慮なく、安心できる場所となるように、自分で取りやすいように、動きやすいようにされている事を尊重して、タンスの上の乱雑状況やベッド上の衣服など細かく干渉しないように努めている。時々家族の協力、や了解を得て、本人と一緒に整理する事もある。	居室には家族と撮った笑顔溢れる写真が飾られていたり、また、タンスの上に遠方の家族からの手紙やメッセージカードがいつでも読み返せるように置いてあり、家族からの温かい文章が安心感につながっている。本人の思いに沿った物品が置かれ、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各職員は笑顔で挨拶する、笑顔で利用者の話を聴く、笑顔で介助する、ゆとりをもって見守る等、利用者にとっては安心して暮らせる場所、職員には笑顔の絶えない働きやすい職場の維持に努めている。		

## 2 目標達成計画

イエローガーデン小矢部

作成日： 令和 7年 9月 2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束をしないための具体的取組が明確ではない。	各利用者の生活が、精神的負担なく、のびやかに、穏やかに継続できるように支援する。	8/15に「介護行動における虐待の認識」(地域ケアリングより)アンケートを全職員に実施して、33項目の介護行動が虐待として認識しているか否かを確認した。相手に配慮すべき介護にもかかわらず、虐待の認識が低い介護行動が判明した。今後の施設内研修会では具体的事例を通して協議して、虐待廃止、身体拘束をしない施設を目指します。	3ヶ月
2	10	介護計画作成～実施～評価のサイクルの中で行っている事を家族や関係者に示すことが出来るよう、書類の整理をする。	職員は、介護計画に沿った介護の実施そして評価等を適時、各利用者の貴重な日常生活情報を提供して、介護計画作成に活かされるように努める。	介護計画作成には全職員が関わる仕組みを整えます。本人や家族のみならず、直接介護を提供している職員も介護記録を基にモニタリング、課題確認等を協議して、その人らしい介護計画作成を目指します。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他(管理者、事務職員、東西ユニットリーダーも自己評価について話し合った)
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成する
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼する
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出する
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組む
	<input type="radio"/> ⑤その他( )